



1986・11

第 30 号

# しろこぼと

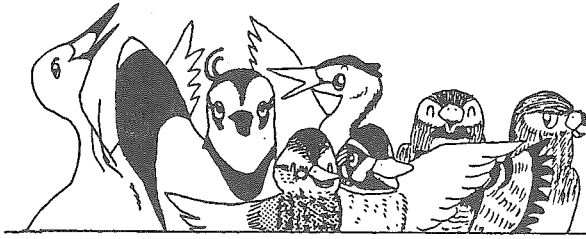
日本野鳥の会 埼玉県支部



タシギ（シギ科） 刈田のアゼ道を歩いていると、急にジェッというしゃがれ声を残して、足下から口ばしの長い鳥が飛び立つ。赤褐色の地にクリーム色の縦すじの多い地味な体色は、枯草の中に降りると背景に完全に溶け込んでしまう。冬、水辺でコサギやタゲリなどを撮影していると、いつの間にか姿を現わして、長い口ばしを泥の中に突き差してミミズなどを漁りはじめる。この写真もタゲリの撮影のついでに撮ったものだ。

（写真と文・松田 喬）

# We are here!



そろそろ冬鳥も出そろい、探鳥計画を立てている方もいらっしゃるでしょう。

しかし、「見たい鳥はたくさんあるのだが、どこに行けば見られるのかわからない」という声も聞きます。

そこで、人気の高い冬鳥達にその居場所をこっそり教えてもらいました。

## コハクチョウ

秩父鉄道の新しい駅、明戸（あけと）駅を下車して南へ5分歩けば、そこは荒川上流で最も広い川幅をもつ明戸川原です。

コハクチョウがこの地区に現われたのは、昭和55年にさかのぼります。大麻生に11羽の群が飛来して以来少しづつ数を増し、昭和60年に23羽、昭和61年にはなんと54羽の多きを数えました。

コハクチョウの群は全身が白色の成鳥と灰色の幼鳥とが家族単位でリーダーの合図に従い行動しているようで、かなり群としての統率はとれているようです。

今年3月9日の早朝、群が翼を休めていると、突然、オオタカが襲いかかりました。一斉に飛び上がり逃げまどうカモと対照的に、幼鳥を中心に成鳥が円陣を組んで、クワー、

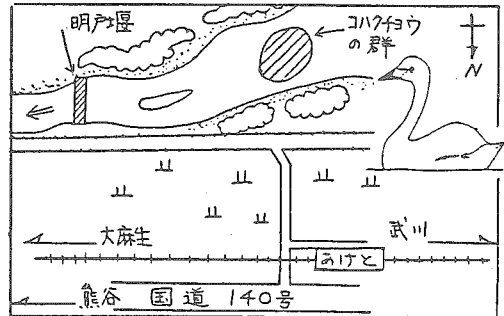
### 大里郡川本町明戸

今井明巨（熊谷市）

クワーと声をあげて警戒する様は圧巻でした。

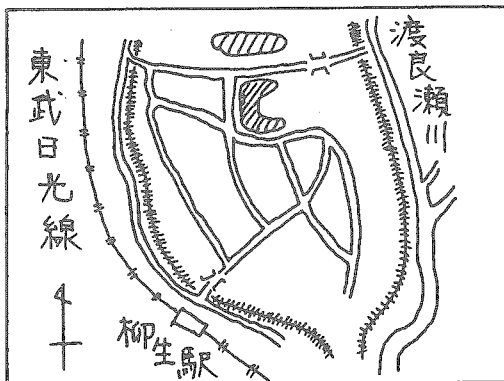
飛来するのは11月中旬から12月上旬、北へ帰るのは3月下旬のようです。

見物人から石を投げられ、心無いハンターに撃たれ、野犬に追われながらの冬は大変です。無事に北国に帰ってほしいですね。



## ノスリ・チュウヒ 北川辺町渡良瀬遊水池

森本國夫（大宮市）



東武日光線の柳生駅から北の方に向かって10分足らず歩くと渡良瀬遊水池の堤防の上に出る。あまりに広大で、初めてだとどこに行ったらいいのか迷う位だ。でも、ノスリを見るなら私の行くところは決まっている。比較的木が多い図の斜線のあたりだ。

昨年の12月、ケアシノスリらしいのが現われたという情報が入って出かけたときなど、ウンただノスリか……などと贅沢なことを言いながら、ケアシノスリらしいのをチラッ

と見るまでに出会ったノスリがなんと5羽を数えた。道端の電柱などにも悠々と止まっていて、車の中からだと肉眼でジックリ観察できる位まで、歩いていても双眼鏡で十分な距離まで近づける。



チュウヒについては、ここならという場所は知らないが、時々アソ原をかすめるように飛んでいる姿を見かける。ここらでは冬鳥の

## トモエガモ

冬の田んぼは気持ちがいい。足元から遠景までよく見える。枯草のあぜ道の南面では、新しい緑が小さく息吹いている。草の名前を気にしながら行くと、急に鳥の群が飛び立つ。カワラヒワ、ツグミ。すぐに近くへ降りて餌探し。今の稲刈は、コンバインなので糞(しいな=未成熟の米)が落ちている。うなう前は鳥達の餌場です。カモも夜これを食べに来るのではないか。水の少ない落堀でコサギが寒そう。こうして白岡駅より4、50分歩いて(バスも有り)久喜菖蒲公園の昭和池に着く。この池は、工業用水、農業用水に利用され、釣場、ボート、自転車の貸し出し等、憩いの場にもなっています。

我々の目当てのカモだが、普段は、どこかに数羽のアヒルとカルガモ、その合の子らしきアヒガモ?が住みついているが、1、2月の時季には、約1万羽のカモでうまる。ヨンガモ、オカヨンガモ、ホソハジロ、キンクロハジロ、そして、昨年は200羽ほどのトモエガモが数えられました。

風よけが無いので防寒具はしっかりと。ど

はずが6月に姿を見かけて驚かされたこともあった。

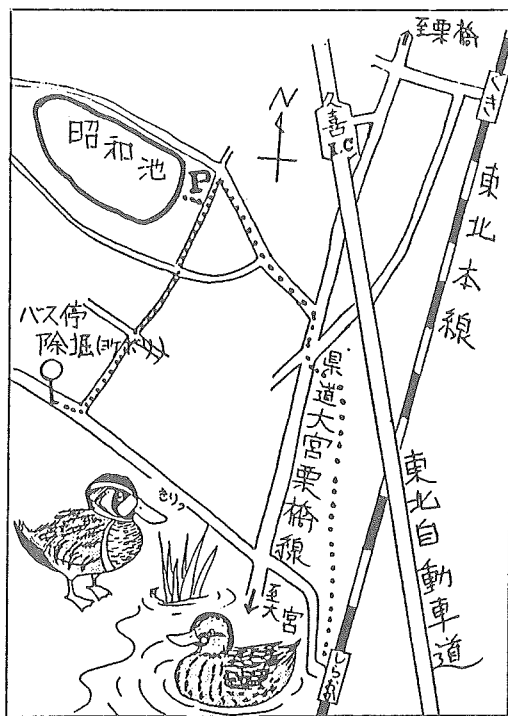
とにかく渡良瀬はワソ・タカ類が多くいるので何に会えるか楽しみである。ただ、11月15日から2月15日までは狩猟シーズンで危険なので十分注意する必要がある、幹線道路から外れない方が無難である。



## 久喜市昭和池

浅田徳次(白岡町)

うしても寒くなったら、カップラーメンを買って(売店にお湯有り)。1、2月が良。



## カムリカイツブリ 所沢市狭山湖

藤原寛治(志木市)

カイツブリというのとあの小さくて潜るやつを想像すると思いますが、なにしろカムリカイツブリというぐらいですから、カイツブリの王様?なのです。だから大きさもマガモ

ぐらいはあり、色白で、スマートで、無数のカモ達が集まる冬の狭山湖の主役といってもいいと思う鳥です。

このカムリカイツブリが、狭山湖には100

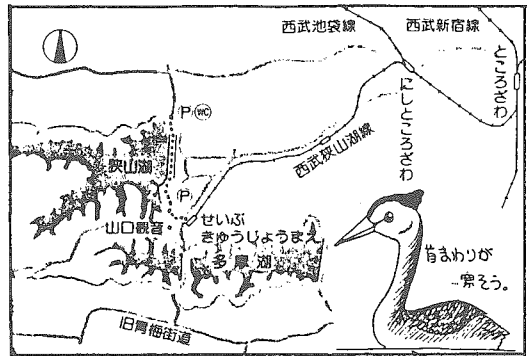
羽以上も渡ってきます。遠くから見てもはっきりそれとわかる白い姿が湖に散らばっているのを見ていると、まさに冬の狭山湖は「白鳥の湖」ならぬ「カンムリカイツブリの湖」だなど一人感慨にひたったりして……。

私の故郷の三陸の海には寒くなるといろいろな鳥がやってきましたが、カンムリカイツブリにだけは会うことができなくて、いつしか憧れの鳥の一つになっていました。それを初めて狭山湖で見た時は、これがカンムリカイツブリかと思わずうなっていました。

そのほか狭山湖では、淡水ガモと呼ばれる仲間はないがい見られますし、そのカモをねらいに来たオオタカやハヤブサなどのワシタ

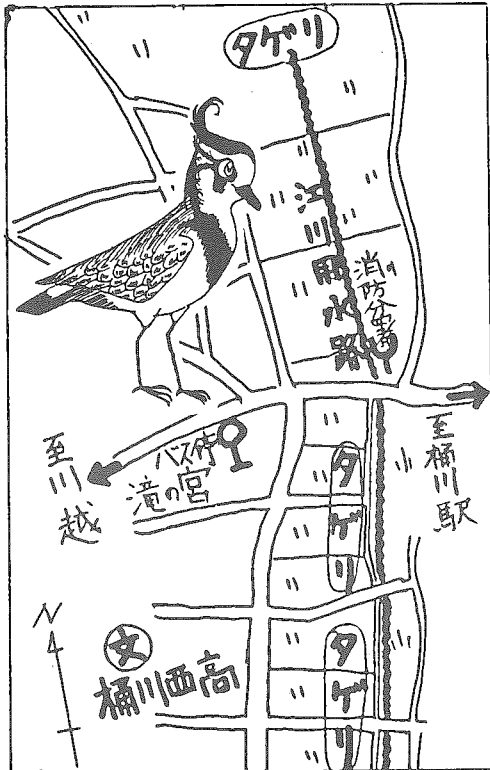
カ類の姿を見ることもできます。

狭山湖には、西武狭山湖線西武球場駅から狭山不動尊の脇を抜けて約20分で行きます。



## タゲリ

長く反り返った冠と光る深緑色の羽の何とも気品のある姿をしたタゲリ。幸せなことに、このタゲリの群れが落穂を拾う水田地帯のすぐそばに私は勤務していますので、冬になる



## 桶川市江川流域

北川慎一（本庄市）

と毎日その姿にうっとりしています。仕事を終えて、まっすぐにのびる農道をぶらぶら歩いていくと、刈りとられた田んぼの中で夕日にその羽を淡くキラキラ輝かせて、エサをついばんでいる姿をすぐ目の前で見ることができます。かと思うとミュージーと鳴いてフワフワりとつばさ下面の白と黒のコントラストを鮮やかに見せて夕焼けの空を群れで飛んでいきます。

この地帯は江川流域の低湿地です。滝の宮のバス停から少し桶川方向に戻ると小さな用水である江川が流れています。この周辺を気の向くままに歩いてみて下さい。タゲリの他にも足元のアンの中からカルガモやコガモがせわしく飛び立ったり、クイナの声を聞くこともできるでしょう。刈りとられた田では、タンギ、クサンギ、ヒバリ、タヒバリ、セキレイなどが遊んでいます。また、まわりの木木ではカケス、オナガ、モズ、ホオジロ、メジロ、ジョウビタキ、アオジなどが見られます。しかし、この江川も下流で埋立てが行われています。何とかタゲリのやって来れる環境をいつまでも残しておきたいものです。

交通＝高崎線桶川駅西口ヨリ川越行バス10分、「滝の宮」下車。

（カット・鈴木加代子）

# 神田2丁目スズカケの道で

山本美代子（鴻巣市）

8月のはじめ、神田2丁目のスズカケの道で、頭上にキジバトが卵を抱いているのを発見。人々は気付かないでその下を足早く通り過ぎていました。

数日後、並木をせん定しているのに出逢いました。わぁ大変。「あの木にはハトが卵抱いている」事を告げますと、「あゝこゝにも巣が有るよ」ときれいに刈込まれたつつじの枝を分けて見せてくれました。青い卵がひとつ。置き去りにされています。こんな低い処。犬に追われたか、猫に襲われたか、この親鳥はどうしたのでしょうか。

数日して又その道を通り見上げると、その枝だけがせん定されず、大きい葉が巣を下からガードしている様でした。が、もっと心打たれたのは、強い日差しと雨をさける様にとダンボールを紐で枝に結びつけ天井が出来ています。私は心嬉しくなりました。今まで気付かない人もアレ!!と言った顔で見上げ微笑して通ります。ハトは穏やかに目をとじて、やがて来る吉日を待っている様でした。

都会の野鳥は、人に助けられて生き、人は野鳥に心なごやかにされる。そんな光景を都心で見ました。

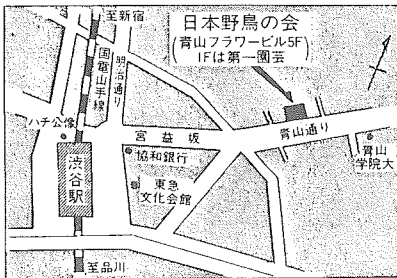
# 鐘撞堂山探鳥会に参加して

松本秀樹（杉並区）

サシバの渡りは話しにも聞き写真でも見えていましたが、実際に見るのとは大違いです。山の端から現われたサシバの群れがこちらに近づいて来て、頭上で輪を描きながらだんだん高く小さくなり、西南西の空へと消えてい

く姿にたいへん感動しました。あの方角が伊良湖岬の方だと聞いた時は、埼玉から日本・アジアとスケールの大きな世界を目のあたりにしたようで、鳥肌が立つほどの興奮を覚えました。探鳥会にはまた伺います。

## ミニサンクチュアリフェア



バードウォッチングウィーク(11月1日より一週間)は、青山フラワールビル全館にて特別展

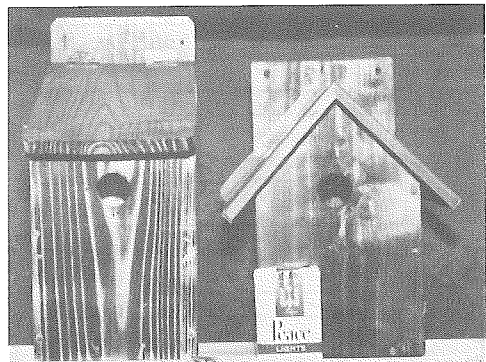
を開催いたします。

- 1階 第一園芸 ミニサンクチュアリ見本園
- 2階 第一園芸 愛鳥クイズコーナーとコンピュータによるあなたの町の自然診断、トリキチおじさんのミニサンクチュアリなんでも相談。
- 5階 バードショップ 野鳥映画の上映と愛鳥用品の販売、日本野鳥の会入会受付。
- 屋上 第一園芸 ミニサンクチュアリ見本園、苗木販売と庭作り相談コーナー

営業時間 11/1(土) 11時30分～18時30分

## 巣箱をあなたの庭に!

木目の美しいシジュウカラ用巣箱を販売します。シジュウカラがよく入ることはすでに実証済みです。写真左がA型1,500円、右がB型1,800円です。浦和市三室探鳥会や熊谷市大麻生探鳥会で販売します。室用のインテリアとしても活用できます。(県支部・事業部)



11/2(日)・11/3(月) 10時～18時、11/4(火)

10時～18時30分(日本野鳥の会・事業部)

# 鳥相で見る埼玉の都市化

—1986年夏鳥分布調査報告—

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

1986年夏の県内野鳥分布調査は、会員諸氏及び秩父愛鳥会の御協力により表1の様に実施されました。ここに本調査の結果を報告致します。

本調査により地域別(表2)の種別生息状況(表3)が得られました。

首都圏の拡大により本県は従来からの県南部ばかりでなく、県央から県北へと都市化の波が拡がりつつあります。それを環境指標のひとつである鳥類の種構成から見ていきます。県内に生息する種を環境指標の観点から表4に示す様に分類し、地域別の生息分類別種構成を図1に示します。

都市化は鳥類から見れば生息環境の悪化であり、都市環境に住める種は表4に示す都市鳥や外来種に限られます。そこで地域ごとの都市化指標を都市的環境に住む都市鳥や外来

種と、食物連鎖の頂点に位置し良好な自然環境で主に生息しているワシ・タカ類から次の様に定義します。

都市化指標 = { (外来種の生息分類別種構成比) + (都市鳥の生息分類別種構成比) - (ワシ・タカ類の生息分類別種構成比) } × 100  
つまり、都市化指標が大きい程、環境破壊が進んでいる事を示します。図1より計算した結果を図2に示します。

## 文献

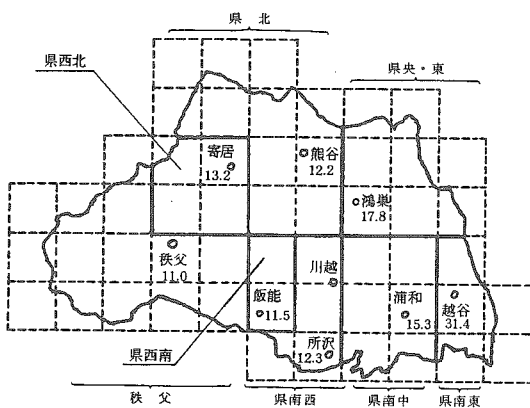
- 千羽晋示 1985 生物の種類構成で自然度をはかる 鳥類 指標生物 284~295 思索社
- 小荷田行男 1986 根釧原野における自然改変の歴史と野生動物の消長 ワイルドライフ・レポート №4 69~81 野生生物情報センター

図1. 地域別生息分類別種構成

地域	外来種			
	都市鳥	水鳥	陸鳥	ワシ・タカ類
県南東	25.7	28.6	40.0	0
県南中	12.5	30.6	51.3	1.4
県南西	13.8	24.6	53.9	4.6
県央・東	16.1	32.1	39.3	5.4
県北	12.2	36.5	43.1	4.1
県西南	14.8	23.0	52.3	6.6
県西北	14.8	19.7	57.3	4.9
秩父	12.3	78.1		2.7
全 県	6.7	28.1	54.9	5.9

単位 (%)

図2. 地域別都市化指標



おさめみえのは  
いけれど、わたしは  
いかに なんのヒト  
なんでしょう？



カット  
黒田佳子

表1. 調査概要

調査期間	1986年5月10日～7月10日	
調査者	会員 64名 秩父愛鳥会	
調査内訳	調査はがき	58枚
	調査票	188枚
調査メッシュ	230メッシュ	

表2. 埼玉県の地域区分

地域	地形区分	おもな都市名	備考	
県南東	低地	草加、越谷	1986年冬より 調査開始	
県南中	台地	川口、浦和、大宮		
	低地	上尾		
県南西	台地	所沢、川越		
県央・東	低地	鴻巣、久喜、加須 栗橋		
	低地	熊谷、深谷、本庄		
県北	台地	飯能、越生		
県西南	低地			皆野、寄居
	丘陵			秩父山地

注) 地域区分は1985年夏鳥調査、つまり本調査開始より同一である。

表4. 生息分類

分類	構成種
外来種 (小荷田 1986)	コブハクチョウ、コジュケイ、ドバト、 セキセイインコ、ワカケホンセイインコ、 ベニスズメ、ギンバラ
都市鳥 (千羽 1985)	キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、シジュウカラ、 カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、 ハシブトガラス
水鳥	外来種、都市鳥を除いた アビ目、カイツブリ目、ミズナギドリ目、 ペリカン目、コウノトリ目、ガンカモ目、 ツル目、チドリ目
陸鳥	外来種、都市鳥を除いた キジ目、ハト目、ホトトギス目、 フクロウ目、ヨタカ目、アマツバメ目、 ブッポウソウ目、キツツキ目、スズメ目
ワシ・ タカ類	ワシタカ科、ハヤブサ科

表3. 県内の地域別種別生息状況

地域 種名	85	県南	県南	県南	県央	県北	県西	県北	秩父
	年夏	東	中	西	東	北	南	北	父
カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コアホウドリ					○				
カワウ	○	○		○					
ヨシゴイ	○	○		○					
ミゾゴイ	○						○	○	○
ゴイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ササゴイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アマサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
チュウサギ	○	○		○	○				
コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アオサギ	○		○		○	○			
コブハクチョウ							○		
カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コガモ		○			○				
キンクロハジロ			○						
トビ	○		○		○	○	○	○	
ウズラ	○	○	○						
ヤマドリ	○								○
キジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒクイナ	○	○		○		○			
バン	○	○	○	○	○	○	○	○	
タマシギ		○							
コチドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イカルチドリ	○		○	○	○	○	○	○	○
シロチドリ	○			○					
イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	
ヤマシギ					○				
オオジシギ	○								
ツバメチドリ	○								
コアジサシ	○	○	○	○	○	○	○	○	
シラコバト	○	○	○	○	○	○	○	○	
アオバト	○		○						○
ジュウイチ	○								○
カッコウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ツツドリ	○		○		○				○
ホトトギス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コノハズク	○								○
オオコノハズク							○		
アオバズク	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フクロウ	○				○	○			○
ヨタカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○

地域 種名	'85 年 夏	県 南 東	県 南 中	県 南 西	県 央 東	県 北 東	県 西 南	県 西 北	秩 父
ヒメアマツバメ	○								
アマツバメ	○		○		○				○
ヤマセミ	○							○	○
アカショウビン	○							○	○
カワセミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ブッポウソウ	○							○	○
アリスイ								○	
アオゲラ	○			○		○	○	○	
アカゲラ	○							○	○
コゲラ	○		○	○	○	○	○	○	○
ヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	
コシアカツバメ	○								
イワツバメ	○		○	○	○	○	○	○	○
キセキレイ	○		○	○		○	○	○	○
ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セグロセキレイ	○		○	○	○	○	○	○	○
ビンズイ						○			○
サンショウクイ	○		○	○					
チゴモズ			○						
モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アカモズ	○								
カワガラス	○								○
ミソサザイ	○								○
イワヒバリ	○								
カヤクグリ	○								
コマドリ	○								○
コルリ	○								○
ルリビタキ									○
ノビタキ	○								
イソヒヨドリ	○								
マミジロ	○								○
トラツグミ	○			○					○
クロツグミ	○			○					○
アカハラ	○		○						○
ヤブサメ	○								○
ウグイス	○		○	○	○	○	○	○	○
コヨシキリ	○			○		○			
オオヨシキリ	○	○	○	○	○	○	○	○	
メボソムシクイ	○		○		○	○			○
エゾムシクイ			○						○
センダイムシクイ	○		○			○		○	○
キクイタダキ	○								○

地域 種名	'85 年 夏	県 南 東	県 南 中	県 南 西	県 央 東	県 北 東	県 西 南	県 西 北	秩 父
セッカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○
オオルリ	○						○		○
コサメビタキ	○			○		○			○
サンコウチョウ	○		○	○	○		○		○
エナガ	○			○			○	○	○
コガラ	○								○
ヒガラ	○								○
ヤマガラ	○		○	○					○
シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ゴジュウカラ	○								○
キビソリ	○								
メジロ	○	○	○	○		○	○	○	○
ホオジロ	○		○	○	○	○	○	○	
ノジコ							○		
アオジ	○		○						○
マヒワ	○								
ウソ	○								○
コイカル			○						
イカル	○		○	○			○	○	○
シメ								○	
コムクドリ	○			○		○	○	○	○
カケス	○			○			○	○	○
ホシガラス	○								○
ドバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セキセイインコ	○						○		
ワカケホセインコ	○						○		
ベニスズメ			○						
ギンパラ	○								

(注1) 紙面の都合上、全地域に生息しているコジュケイ、キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシブトガラス、ハシボソガラスの10種は表から削除してある。

(注2) トビ以外のワシ・タカ類は保護のため削除してある。

(注3) 日本で繁殖しないシギ・チドリ類等は削除してある。

(注4) 本調査は繁殖調査でないため、期間中に国内繁殖種であれば明らかに通過であっても示してある。(執筆 小荷田行男)



# 野鳥情報

ヨシゴイ ◇9月6日、坂戸市堀込地区で1羽(榎本秀和、赤瀬征雄)。  
アオサギ ◇9月1日、浦和市の田島中学校付近で10羽(福井 亘)。  
オシドリ ◇9月23日、寄居町玉淀湖で3羽(黒田佳子他5名)。  
マガモ ◇9月6日、坂戸市堀込地区で2羽(榎本秀和、赤瀬征雄)。  
コガモ ◇9月7日、大宮市関沼で1羽(福井 亘)。◇9月13日、浦和市白幡沼で3羽(海老原美夫)。  
ヒドリガモ ◇9月23日、熊谷市別府で2羽(今井明巨)。  
オナガガモ ◇9月22日、浦和市白幡沼で1羽(海老原美夫)。  
ハンピロガモ ◇9月23日、熊谷市別府で♂♀各1羽(今井真由美)。  
オオタカ ◇9月13日、浦和市秋ヶ瀬B地区で若鳥1羽がコガモ約30羽の群れに突入(海老原美夫)。  
ノスリ ◇9月13日、浦和市の田島中学校付近で1羽(田島中学バードウォッチング部)。  
サンバ ◇9月18日、熊谷市河原松山上空で5羽(山口 博)。  
ハヤブサ ◇9月1日、浦和市の田島中学校付近で1羽(福井 亘)。  
オオバン ◇9月15日、熊谷市別府で2羽(鈴木忠雄)。  
ムナグロ ◇8月31日、吉川町後新田の休耕田で約30羽(戸張勝弘)。  
ダイゼン ◇9月13日、浦和市秋ヶ瀬A地区で1羽(海老原美夫)。  
アメリカウズラシギ ◇9月21日、浦和市秋ヶ瀬A地区で1羽(横山みどり)。  
コモンシギ ◇9月14日午後1時、浦和市秋ヶ瀬A地区で1羽(初野 謙)。22日終認。  
セイタカシギ ◇6月4日～6日、浦和市秋ヶ瀬B地区で♂♀各1羽(松田 喬)。  
ウミネコ ◇9月1日、浦和市の田島中学校付近で3羽(福井 亘)。

セダロアジサシ ◇9月4日、所沢市内で幼鳥1羽が保護される。  
シラコバト ◇9月2日、川島町釘無橋上流の養鶏場近くで2羽(齊藤洋一)。  
ツツドリ ◇9月7日、大宮市関沼で1羽(福井 亘)。◇9月20日、浦和市秋ヶ瀬B地区で赤色型1羽(海老原美夫)。  
アオゲラ ◇9月7日、三芳町多福寺で1羽(藤原寛治)。◇9月13日、鶴ヶ島町高倉の林で1羽、池尻湖で2羽(宮内武昭)。  
ショウドウツバメ ◇9月15日、熊谷市別府で10羽以上(榎本秀和)。◇9月29日、北本市北本団地付近で約1万羽(田中智恵子)。  
コシアカツバメ ◇9月23日、浦和市秋ヶ瀬公園水棲植物園上空で2羽(海老原美夫)。(マミジロ)ツメナガセキレイ ◇9月17日、浦和市秋ヶ瀬A地区で幼鳥1羽(初野 謙、大塚 豊)。  
サンショウクイ ◇9月1日、鳩山町奥田で5羽(水村 実)。  
モズの高鳴き ◇9月6日、坂戸市堀込池で(榎本秀和、赤瀬征雄)。  
トラツグミ ◇9月13日、鶴ヶ島町高倉の林で1羽(宮内武昭)。  
エゾビタキ ◇9月27日、浦和市秋ヶ瀬ビクニックの森で1羽(藤原寛治)。  
エナガ ◇9月13日、鶴ヶ島町高倉の林で数羽(宮内武昭)。  
イカル ◇9月17日、鶴ヶ島町高倉の林で43羽(宮内武昭)。  
コムドリ ◇9月6日、浦和市中尾の屋敷林で18羽(草間和子)。◇9月18日、熊谷市肥塚で♂1羽(鈴木忠雄)。



コモンシギ(撮影・金井祐二)



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。  
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば  
双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意く  
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以  
下＝50円

**11月2日（日） 富士見市 柳瀬川**

— 秋深まる柳瀬川 —

午前9時東武東上線柳瀬川駅前集合。（武蔵野線南浦和8：22発→北朝霞8：33着・乗換・東武東上線朝霞台8：46発→柳瀬川8：57着／東上線川越8：43発→柳瀬川8：57着）。午後1時ごろ解散。刈田に群れるタゲリやキジ、ハマングを楽しみます。（担当＝藤原寛治、長谷キミ子）

**11月3日（月・祝） 川口市 差間休耕田**

— 紅葉の見沼斜面林 —

午前9時武蔵野線東浦和駅前集合（武蔵野線南浦和8：54発→東浦和8：58着）。午後1時ごろ解散。見沼用水の土手を、シメやジョウビタキを見ながらのんびりと歩こう。（担当＝楠見邦博、為貞貞人）

**11月8日（土） 日光 戦場ヶ原**

— 初冬の戦場ヶ原に冬鳥を求めて —

午前6時50分大宮駅東武線改札口前又は、午前7時35分春日部駅日光行きホーム最前部集合。（浅草7：10→春日部7：42→日光9：13着、湯元行きバス9：21に乗車、赤沼10：20着）、帰りは日光発17：50→春日部19：20着に乗車予定です。東武各駅で日光フリーパスをお求めください。初冬の日光では、マヒワ、ベニマシコ、キバツリ、ゴジュウカラ、キツキ類を、じっくりと見ることができます。防寒と足元はしっかりと。（担当＝中島康夫、楠見邦博）

**11月9日（日） 熊谷市 大麻生（定例）**

— 冬鳥に再会大麻生 —

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合（秩父鉄道熊谷9：09発→大麻生9：18着／秩父鉄道寄居9：12発→大麻生9：32着）。シメ、アオジ、ツグミ等の冬鳥やカワセミが見られるかな。午後1時ごろ解散。（担当＝鈴木忠雄、今井明巨）

**11月16日（日） 浦和市 三室地区（浦和市**

立郷土博物館共催。定例）参加費無料

— いつも新鮮、三室地区 —

午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。芝川にはユリカモメやカモ達が行ってきます。林ではコゲラやツグミにも会えます。（担当＝楠見邦博、福井恒人、森本國夫）

**11月23日（日） 坂戸市 高麗川**

— 川面に映えるカワセミ —

午前9時東武鉄道越生線川角駅前集合。午後1時ごろ解散。（埼京線大宮7：35発→川越7：54着・東武東上線乗換・川越8：08発→坂戸8：22着・越生線乗換・坂戸8：39発→川角8：47着）。カワセミの見られるポイントが何ヶ所かあります。（担当＝中島康夫、楠見邦博、草間和子）

**11月24日（月・振休） 桶川市 川田谷**

— 貴公子タゲリと初デート —

午前9時桶川駅西口集合（浦和8：26→大宮8：33→桶川8：46着／熊谷8：24→桶川8：48着）午後1時ごろ解散。タゲリの群れやツグミ、タヒバリなどを見ながらのんびりと泉福寺まで歩きます。（担当＝山部直喜、北川慎一、田中智恵子）

**11月30日（日） 狭山市 入間川**

— カモとサギをゆっくりじっくり —

狭山市立中央児童館主催の野鳥観察会。参加費無料。午前8時45分西武新宿線狭山市駅西口（南浦和7：44→新秋津8：06→乗り換え→秋津8：18→所沢8：21→新宿線乗換え8：35発→狭山市8：45着）または午前9時中央児童館集合。12時ごろ解散。（担当＝海老原美夫、福井恒人）

**12月7日（日） 鳩山町 物見山**

午前8時30分東武東上線高坂駅前又は、午前9時鳩山町公民館石坂分館集合。

# 探鳥会報告

9月7日(日) 鳩山町 越辺川と休耕田

人 41人 天気 晴 鳥 アマサギ ダイサギ  
 コサギ サンバ コジュケイ クサシギ イソシギ  
 タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ヒ  
 ヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ ホオジロ  
 カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナ  
 ガ ハンボソガラス ハンフトガラス(24種)越  
 辺川のカワセミ2羽をたっぷり見て、休耕田でもカ  
 ワセミに出会って、堪能。最後には、サンバも現われ  
 た。越辺川の清流に遊ぶ子供達がうらやましかった  
 暑い日だった。

9月13日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水池

人 28人 天気 晴 鳥 アマサギ ダイサギ  
 コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ  
 シマアジ トビ サンバ チョウゲンボウ ウズラ  
 バン オオバン コチドリ トウネン タカブシギ  
 タシギ ユリカモメ キジバト ヒバリ ショウド  
 ウツバメ ツバメ モズ ノビタキ コヨシキリ  
 オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ムク  
 ドリ オナガ ハンボソガラス ハンフトガラス  
 (35種)カモの中にシマアジが2羽。新支部の探鳥  
 会ではじめてのコヨシキリを見た人もいた。シギ・  
 チは少ない目で残念だった。

9月14日(日) 熊谷市 大麻生

人 22人 天気 曇 鳥 カイツブリ ゴイサ  
 ギ コサギ カルガモ トビ コジュケイ イカル  
 チドリ クサシギ イソシギ キジバト ヒバリ  
 ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ  
 モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオ  
 ジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハ  
 ンボソガラス ハンフトガラス(26種)完成間近な  
 県営ゴルフ場の中を探鳥。冬鳥たちは、ここにまた  
 戻って来てくれるだろうか。お目当てのシギ・チは  
 少なく残念。トビとカラスが魚をめぐって壮大な  
 空中戦を展開していた。

9月15日(祝) 浦和市 秋ヶ瀬

人 40人 天気 曇時々小雨 鳥 ヨシゴイ  
 ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オオタカ  
 ムナグロ タカブシギ チュウシャクシギ タシギ

オオジシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキ  
 レイ ヒヨドリ モズ セッカ ホオジロ カワラ  
 ヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス  
 ハンフトガラス(25種)ムナグロは、少なくても期待  
 外れ。そのかわりにチュウシャクシギの散歩をじっ  
 くり観察。そして、ヨシゴイが4羽で並んで色々な  
 角度から見せてくれた。鳥合わせでシギ・チのカウ  
 ント部隊と合流。バードソンに参加した東京アシ  
 クスチームの松井、横山両氏より結果報告と募金へ  
 の協力に対するお礼の挨拶もあった。

9月21日(日) 浦和市 三室地区

人 41人 天気 曇 鳥 ダイサギ コサギ  
 アオサギ カルガモ コジュケイ クサシギ イソ  
 シギ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバ  
 メ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 ヒヨドリ モズ エゾビタキ シジュウカラ カワ  
 ラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ  
 ハンボソガラス ハンフトガラス(26種)そろそろ  
 渡りの時期と探していたら、やはり居ましたエゾビ  
 タキ。芝川では、久々に登場してくれたカワセミを  
 皆夢中で見た。今年はなぜかシギ・チが少ない。

9月23日(祝) 寄居町 鐘撞堂山

人 40人 天気 晴 鳥 トビ ハイタカ サ  
 シバ キジバト アカゲラ コゲラ キセキレイ  
 セグロセキレイ ヒヨドリ エナガ ヤマガラ シ  
 ジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズ  
 メ ムクドリ カケス オナガ ハンボソガラス  
 ハンフトガラス(21種)途中の大正池上空を11羽の  
 サンバが帆翔していた。山道ではアカゲラを全員  
 でじっくり。頂上でも続々とサンバが帆翔。この日  
 観察されたサンバは計29羽。サンバとハイタカの空  
 中戦もあり、ハイタカの白い腰がくっきり。

9月28日(日) 伊奈町 小室無線山

人 30人 天気 快晴 鳥 コサギ コガモ  
 サシバ コジュケイ キジバト コゲラ ハクセキ  
 レイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ カワラヒワ  
 スズメ ムクドリ カケス オナガ ハンボソガ  
 ラス ハンフトガラス(17種)抜けるような青空のも  
 と、無線山は金色の秋の陽射しにあふれ、響き渡る  
 モズの声。お目当てのサンバは、リーダーの気持ち  
 を察してくれたのか、開始早々に出現。幼鳥を含む  
 延べ6羽が秋空を舞った。また、20羽ほどのコガモ  
 も参加者を喜ばせた。

## 連絡帳

### タンチョウ保護のバードソン

9月6日午後9時から24時間、全国15チームが参加してバードソンが行われ、目標を上まわる800万円以上の募金が集められる見込みとなりました。

バードソンとは、『野鳥』誌を読んでいない方のために簡単に説明しますと、イギリスでは30数年も前に始められた募金キャンペーンで、1チーム4人の各チームが、24時間で何種類の野鳥を確認できるかを競います。そしてただ種類数を競うだけではなく、あらかじめ多くの人にスポンサーになってもらい、1種類につきいくらという形で募金の約束をしていただきます。つまり、1種でも多くの野鳥を確認すれば、それだけ多くの募金を集める事ができるわけです。募金に応じる側でも、最後まで自分がいくら払う事になるのかわからないという、ゲーム性たっぷりのイベントなのです。



(左から松井さん、横山さん、ヘイルさん、サライさん)

埼玉県支部からは、イギリス人のクリス・クックさんがキャプテンをつとめる東京アシックスチームに、松井昭吾さん、横山みどりさんと、やはりイギリス人のポール・ヘイル

さんの3人が参加し、620 Kmを走破して全国5位の79種を確認、集めた支援者は198口、約75万円と大活躍をしました。

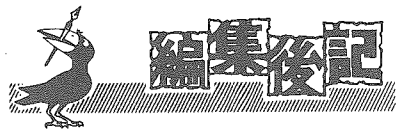
今回集められた募金は、タンチョウの生息地を守るために使われます。北海道鶴居村に計画しているタンチョウのサンクチュアリ用地の一部買い上げに着手できることとなります。ご協力ありがとうございました。

### 会員数は

10月20日現在599人です。

### 活動報告

- 9月8日 封筒の印刷発注。11日納品。
- 9月14日 役員会(第6次鳥獣保護事業計画、事務局のあり方、12月までの行事予定、その他)。
- 同日 普及部会議、総務部会議。
- 9月15日 編集部会議。
- 9月22日 探鳥会用の旗を発注。
- 9月27日 『しらこぼと』10月号袋詰め(ボランティア5人)。29日発送。
- 同日 研究部会議。
- 9月28日 狭山市立中央児童館主催の野鳥観察会指導(リーダー4人)。



秋ヶ瀬A地区でコモンシギ(commonではない)が出た。当然、万障繰り合わせて見に行く。大井野鳥公園で、コキアシシギが出た。当然、……。秩父でヤマショウビンが出た。これは新聞で知ったので、チャンスはのがした。私は、まだまだ珍鳥大好きな初心者です。でも、ベテランの人たちも、たくさん来てたな。しかも何度も。(山部直喜)

題字『しらこぼと』: 日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正清)

『しらこぼと』

1986年11月号(第30号)  
発行人 今井昌彦

頒価100円(会費に含まれます)  
発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号  
電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990  
印刷所 望月印刷株式会社